

整理番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R3.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R3.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から 集約・抜粋(プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4	「具体的対応方針の見直し・検証」及び「構想区域全体の2025年の医療提供体制の検討」の検討結果 ※5					
				R3.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅療養 後方支援	終末期 医療		機能別病床 数(2025)	変更 あり	変更 なし	検討中	具体的な変更内容等	
1	萩	萩慈生病院	療養 144	慢性 144	慢性 144							・慢性期医療を主体として、回復期から維持期の医療と看護、介護、医学リハビリテーションを行っている。また在宅支援のための多機能サービスで切れ目のないサービスを提供している。	・急性期医療機関の後方病院として、地域医療の中で慢性期医療施設としての役割を果たしていく。 ・地域包括ケアの中での自院の役割を果たしていく。 ・難病疾患患者の療養支援。	144 慢性 144				
2	萩	萩むらた病院	一般療養 78 18 60	急性慢性 78 18 60	急性慢性 78 18 60					○		・急性期機能を担う。	・病床数が少ないが急性期から慢性期まで責任を持った医療ができるような病院作りを目指し地域医療の役割を果たしていく。 ・当院では人工関節専門医による治療も特化し山陰地区でも山陽地区と同等の技術が受けられるように対応していく。 ・救急医療に対してもできる限りの対応をしていく。	76 急性 慢性 60				
3	萩	全真会病院	療養 54	慢性 54	慢性 54							・慢性期機能を担う。	・地域における慢性期(見取り・ターミナルケア)を担う。	54 慢性 54				
4	萩	萩市民病院	一般 100	急性 100	急性 100					○		・5疾病では、「心筋梗塞等の心血管疾患」の急性期の機能、「がん(子宮がんを除く)」の標準的な診療機能、「糖尿病」は慢性期合併症の治療として腎不全の治療を行う機能を有する医療機関としての役割を果たしている。 ・5事業における「救急医療」は、病院群輪番制病院として、「へき地医療」はへき地医療拠点病院としてへき地の診療を支援し、「小児医療」は地域に必要な小児医療を提供するなど、それぞれの役割を果たしている。	「急性心筋梗塞」、「小児医療」、「救急医療」、「へき地医療」など現在の役割を堅持するとともに、小児科と産婦人科が一体的に提供できる体制を目指して産婦人科のある民間病院、診療所と統合を含めた検討を行うなど、地域完結型の中核病院を目指す。 ・引き続き急性期を担う中で、高度急性期や回復期の機能も必要と思われるが100床規模では困難である。人口減少などによる必要病床数の減少に備え、地域の医療提供体制を維持するうえで、同じ急性期医療を担っている民間病院と調整のうえ病床機能を整える。	検討中				
5	萩	都志見病院	一般療養 234 175 59	急性回復慢性 234 118 57 59	急性回復慢性 205 118 57 30	地ケア 57				○	○	・急性期、回復期、慢性期の各機能を担う。	・急性期と回復期を中心とした地域完結型の中核病院を目指すべく、圏域の医療機関等と診療科や病床機能について検討する。 ・地域包括ケアシステムの一端を担う為に、在宅医療をサポートするとともに、災害拠点病院として、傷病者の受け入れとDMATの派遣。	検討中				
6	萩	玉木病院	一般療養 151 40 111	急性慢性 151 40 111	急性慢性 151 40 111					○		・急性期入院から在宅療養に到るまでの幅広い疾病に対して総合的に対応できる医療体制を整えており、プライマリケアの提供に努めている。 ・一般病床に関しては、萩圏域の2次救急輪番体制にて、4日に1度の救急指定を担当している。 ・療養病床に関しては、医療の必要度が高く在宅復帰が困難な患者の受け皿として機能している。 ・県内では山口大学を除き唯一、高気圧医学専門医と高気圧酸素治療専門技師が常勤しており、圏域内や県外を含む圏域外からも高気圧酸素治療を引き受けている。 ・人工透析のベッド数は7台で、外来及び入院に対応しており、在宅復帰が困難で維持透析が必要な患者も療養病床にて受け持っている。	・基本理念の1つである「急性期(医の本質としての救急)と慢性期(医の心としての介護)との全人的医療」を基本的な当院の姿勢として継続し、他の医療機関等と連携の強化に一層取り組んでいく。 ・萩圏域の地域医療を守る為、2次救急輪番体制を含めて、中核の急性期病院の後方支援としての役割をさらに果たしていく。ポストアキュート機能の充実強化。 ・在宅担当の診療所とも連携し、救急医療と在宅医療の橋渡しの役割を強めていく。サブアキュート機能の充実強化。 ・在宅療養支援病院も視野に、在宅担当の診療所との密接な協力の下、萩圏域の在宅医療の充実の為にできることを追求していく。 ・今後も引き続き、医療の必要度の高い療養患者の受け皿として機能を果たしていく。	急性 151 慢性 40 111				
病院小計				高度急性回復慢性 761 0 276 57 428	高度急性回復慢性 732 0 276 57 399	57 0 57	0	3	1	1	0			425 0 56 0 369	0	0	0	
7	萩	萩市国民健康保険見島診療所	一般 2	急性 2	急性 2							・急性期の患者については、基本的にドクターヘリや救急船等により本土へ搬送しているが、荒天等で本土への救急搬送が不可能な場合などの緊急時に対応することが、当院の病床の役割となっている。	・本土から約45km離れた離島に開設されている唯一の医療機関として、現在の医療提供体制を維持する。 ・急性期の患者の対応については、現在の救急搬送体制を維持する。	急性 2				
8	萩	花宮医院	一般 16	急性 16	急性 16							・4機能の内、急性期が中心であるが回復期および慢性期も対応。	・地域の独居者の割合は増加すると思われるため、自宅での急変時の対応を中心とした急性期の提供体制を維持する。 ・地域における回復期、慢性期医療の一翼を担う。	急性 16				
9	萩	医療法人なかむらレディースクリニック	一般 10	急性 10	急性 10							・急性期機能(分娩)を担う。	・分娩を主体とした急性期医療を、可能な限り継続していく。	急性 10				
診療所小計				高度急性回復慢性 28 0 28 0	高度急性回復慢性 28 0 28 0		0	0	0	0	0			28 0 28 0	0	0	0	
医療圏合計				高度急性回復慢性 789 0 304 57 428	高度急性回復慢性 760 0 304 57 399	57 0 57	0	3	1	1	0			453 0 84 0 369	0	0	0	

※1:令和3年度病床機能報告における病床数。  
 ※2:中国四国厚生局「届出受理医療機関名簿(届出項目別)」において、【地ケア:地域包括ケア病棟入院料又は地域包括ケア入院医療管理料】、【回リハ:回復期リハビリテーション病棟入院料】を届け出ている病床数。  
 ※3:【地域医療支援:地域医療支援病院の承認を受けた病院】、【救急医療施設:二次救急医療施設の認定を受けた病院は「○」、三次救急医療施設の認定を受けた病院は「◎」】、【在宅医療支援:在宅医療支援病院又は在宅医療支援診療所の届出のある医療機関】、【在宅医療後方支援:在宅医療後方支援病院の届出のある病院】、【終末期医療:令和3年度病床機能報告における「有床診療所の病床の役割」の項目のうち、「終末期医療」を選択している有床診療所】  
 ※4:「機能別病床数(2025)」については、令和4年12月までに調整会議において合意された2025プランの内容を反映している。また、有床診療所については、「病床機能報告による病床数」の「R7.7.1」の機能別病床数を反映している。  
 ※5:「具体的対応方針の見直し・検証」及び「構想区域全体の2025年の医療提供体制の検討」を行った結果、具体的対応方針(2025プラン等)について、①変更を行う場合、「変更あり」に○を付し、具体的な変更内容等を記載する。  
 ②変更が必要ない場合、「変更なし」に○を付し、変更しない理由等を記載する。③検討中の場合、「検討中」に○を付し、可能な範囲で具体的な検討内容を記載する。